

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・暑さが厳しく、飲物がよく売れている。お中元の時期でもあり、売上が増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光客、インバウンドは引き続き好調であるとともに、地元の客向けの行事もかなりにぎわっている。にぎわいに伴い、飲食店を中心に誘客が好調であり、街全体のにぎわいにつながっている。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材やパソコンの現行OSのサポート終了に伴うパソコン買換えがけん引している。
	○	設計事務所（所長）	単価の動き	・建設業界において、資材や人件費等が価格転嫁されており、景気はやや良くなっている。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・中国からのインバウンドが減少するなか、国内観光客が大きく増えており、商店街にはにぎわいと活気がある。土産物や季節のレジャー関連グッズ、宿泊は好調である。ただし、地元客の消費には引き続き慎重さがみられる。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・猛暑の影響は景気にとってマイナス要因だが、大阪・関西万博の人気は想定以上で、地域全体に波及効果が現れている。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店舗売上は減少しているが、外商売上が増加し、結果として例年並みとなった。
	□	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・インバウンドは前年よりも大きく減少し、日本人客は前年を若干下回っている状況である。
	□	スーパー（店長）	単価の動き	・価格高騰による買い控えはみられるが、客単価は下落していない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・単価の上昇が続き、売上の増加につながっている。客は少しでも単価の低いところを探しており、競合店との競争が厳しくなっている。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・米売場は落ち着きを見せ始めた。7月になり、気温も大きく上昇し、季節商材も動いているが、選挙での動向、海外情勢、米国の関税政策などに起因する先行きの不透明感による節約志向は依然として続いている。
	□	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・特売日やポイントアップの日に来店する傾向がより強くなっている。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・スーパーマーケット全体では、米、卵、加工食品などの値上げにより、売上自体は増加傾向である。しかし、実質賃金などの状況も考慮すれば、景気は上向いていない。
	□	コンビニ（総務）	販売量の動き	・売上自体は、前年比ベースでは好調だが、前年比自体は3か月前と変わらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今年に入ってから来客数はかなり減少している。物価高のため、消費はかなり冷え込んでいる。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・セールを開催したが、来客数が少ない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年と比べ、売上は5％程度低下している。前月に引き続き来客数も減少しており、衣料品への消費意欲が大きく低下している。
	□	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・暑さが早く到来したため、夏物商材の売上が前年よりも減少している。パソコンについては、現行OSのサポート終了に伴い、前年比180％にて推移している。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・複数の人気車種について、受注停止が続いている。
	□	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・来客数や購買意欲に大きな変化はない。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・県外、インバウンド共に堅調で、売上、来館数共に引き続き前年に比べて好調に推移している。

	□	タクシー運転手	お客様の様子	・状況に大きな変化はない。客からは、会社の飲み会が実施されなくなったという声が聞こえる。県外客は繁華街近くに宿泊することが多く、タクシーを利用しない。昼間の利用客もまばらである。
	□	競艇場（マネージャー）	お客様の様子	・来店客の状態に、大幅な変化はなく、良くも悪くもない。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑の影響から、客が以前の同時期より減少している。夏季のボーナスも支給され、多少は良くなる時期ではあるものの、物価高の影響により客の動きは鈍化している。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・米の価格高騰により繁華街の人出が減り、猛暑も加わり来客数も減少している。商品価格の上昇もあり、個人、企業共に購入数を必要最小限に抑えている。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・物価高騰で、客の購買意欲が低下し、商品の動きも悪く、お中元の進物は年々減少している。
	▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・これまでに実施した商品の値上げの影響により、販売点数が前月比で減少している。
	▲	スーパー（統括担当）	来客数の動き	・来店客の減少は従来の通りであるが、その傾向が強くなっている。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数は変化なしであるが、買上点数が減少している。物価上昇に伴い、売上高は前年比で微増であるが、物価上昇分を考慮すると、実質的には景気は前年を下回っている。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・6月中旬頃から、やや買い控えがあったが、7月に入ると更にその傾向が顕著になった。余分な物を購入しなく、物価高での節約志向がかなりみられる。
	▲	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・米、卵、肉などの食材の値上げが継続しており、景気はやや悪化している。
	▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ボーナス月である7月も、好調であったのは初旬だけで、それ以降の来客数は増加しなかった。
	▲	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・7月は、前年度より商品単価を下落させないと集客できず、景気はやや悪くなった。
	▲	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・先行き不安から、客が外出を控える傾向がみられる。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・6月の売上が好調だった反動で、7月はやや減少した。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・暑さのため、高齢者の客は、昼間に外出しない。
	×	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・春に比べて受注量が減少している状況において、メーカーからは値上げの通知が来ており、今後受注できるか懸念される。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・夏場は四国遍路に関連する業務が少ない。暑さでタクシーを利用する客も増加してはいるが、近距離の客が多く、売上は減少している。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年は梅雨明けが早く、猛暑が続いているため、夏物商材の売上が好調である。ただし、連日の暑さのため、観光地では7月中旬から実際に来店する客が減少している一方、自宅でインターネットから注文をする客が増加している。最近では、専門店が売場の販売効率上昇のため、従来の商品に加え我々の商品を新規に採用することにより、売上確保につながっている。
	○	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・建築基準法改正で建築確認審査を一部省略する規定である4号特例が縮小された影響により、戸建て住宅着工が4月、5月と低迷した。しかし、これは一時的な事象であり、受注量は平準化されており、景気はやや良くなっている。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・例年並みの米の収穫量も期待されており、米農家に活気が出てきている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・米国の関税政策を要因に、設備投資が様子見となっている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注が、例年と比べて非常に遅い。

雇用 関連 (四国)	☐	輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きな変化がみられない。
	☐	通信会社（総務担当）	受注量や販売量の動き	・4月以降は、今年度内の受注が着実に積み上がっている。
	☐	金融業（副支店長）	取引先の様子	・物価上昇後の客の行動や受注状況に大きな変動はない。
	☐	税理士事務所	取引先の様子	・景気が好調であるニュースが流れておらず、どの業界を見てもプラス要因、マイナス要因共にみられない。
	☒	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・土地建物の価格や人件費等が高止まりしている。銀行の融資判断も厳しくなっている。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	☐	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・現状では、求職者の動向が業界の景気を左右する。
	☐	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・2026年春の新卒採用に苦戦した企業のなかで、夏採用での補填に取り組んだ企業の多くは、人員の確保に至っていない。そのため、中途採用での人員確保や次年度に向けた計画のやり直しを実施せざるを得なくなっている。
	☐	職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人数、新規求職者数共に、前年比と同程度であり、3か月前と余り変わらない。物価高騰により年金だけでは生活ができないと、70歳以上の方の相談が増加している。
	☐	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は引き続き好調である。
	☒	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・民間の広告は明らかに減少しており、公共に頼らざるを得ない。
	×	—	—	—